

優先的な改修の実施により、老朽化施設をより使いやすく



設置 舞鶴市役所 市民文化環境部 スポーツ振興課

運営 舞鶴スポーツネットワーク
☎ (0773) 66-1061 FAX (0773) 66-2850

所在地
・京都府舞鶴市上安久420

アクセス
・京都交通バス「税務署前バス停」下車、徒歩10分

DATA

竣工
・1986年
(2019年改修)

規模
・延床面積 7698.93 m²

総事業費
・約9千万円
-スポーツ振興くじ助成金 56,884千円
(トイレ・更衣室バリアフリー化工事)

■主な設備



アリーナ
観覧席1,024席



剣道場
観覧席250席



柔道場
観覧席244席



レスリング場
220m²

<その他> トレーニング室/会議室 等

■体制図



改修のための構想・計画

○東京大会ホストタウン採用決定がきっかけに

■竣工から30年以上経過し、様々な要望に対応できなかった

・1986年の竣工から30年以上が経過しているが、この間、トイレ設備は未改修だった。施設が古いことから、障害者スポーツの利用者や、年配の利用者に向けたバリアフリー化等、以前から要望が挙がっている状況だった。

■誰にとっても利用しやすい環境へ

・2016年6月、舞鶴市がウズベキスタン共和国のホストタウンに決定し、柔道、レスリング代表チームが舞鶴文化公園体育館を利用することとなった。



・施設老朽化によって様々な箇所の改修が必要であるものの、予算も限られる中で、「スポーツをする人だけでなく、見る人も含めて誰もが使いやすい施設」とするために、この機会をきっかけに、多くの来館者が利用し、またソフト面での利便性向上が難しいトイレについて、重点的に改修することとした。



みんなにとって利便性が向上

洋式トイレ等改修

改修等

○誰にとっても使いやすいトイレとする改修の実施

■清潔感・イメージの向上

・多くの人が利用する場所であつたトイレを“施設の顔”として捉え、様々な支障が生じていたトイレを、全洋式化や乾式化を図り、清潔で快適な空間となるよう、設計・改修している。



■様々な立場の利用シーンを想定した改修

・本施設を利用する様々な立場の利用シーンを想定した改修に加え、管理者にとってもメンテナンスしやすい空間、製品の選定、環境への配慮等、誰もが利用しやすい空間を実現している。



◆女性競技選手や利用者



スタイリングコーナーの設置

◆大柄の選手や外国人



標準的なブースでも広めの設計

◆清掃のしやすさ



壁掛小便器の採用

管理・運営

○快適な利用を実現し、高い評価

■すべての利用者が快適に利用

・まだまだ課題は残るものの、ホストタウンとして外国人選手を無事受け入れるとともに、多くの競技者や観客、障害者競技選手、車いす利用者、子ども連れ、外国人などすべての利用者に対応したユニバーサル空間を実現し、施設に対して高い評価を実現している。



ホストタウンとしての受け入れ



大会の招致・開催

トイレ (改修)

➤ スポーツを「する」、「みる」両方の観点から誰もが使いやすい施設にするためにトイレを重点的に改修

子どもや外国人等は、和式トイレを使うことができず、その他の属性も不便を感じることもある。



最新の洋式トイレに改修し、誰もが利用できる環境を実現。

子どもや子連れの利用者も多いが、子どもの身体にあった高さになっておらず利用しづらい環境がある。

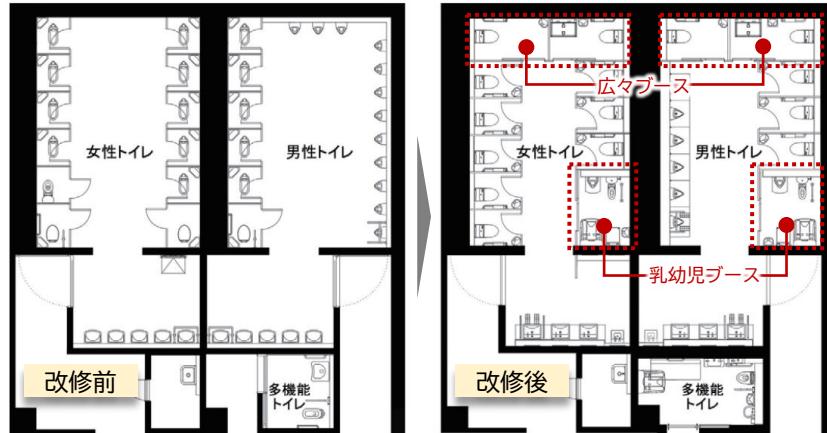


洗面の高さを1カ所低く設置。多機能トイレの混雑を防ぐため、男女トイレに幼児用ブースを設置し、子ども連れに配慮した器具を充実。

様々な身体状況の競技選手や利用者に対応できる環境が求められている。

多機能トイレを配置。コンパクト機能を採用し、省スペース空間でも利便性の向上を実現。

外国人選手や体格が大きい選手は、規格のトイレの場合、空間が狭く利用しづらいが、既存の構造・空間のまま、利便性を高めるための改修をどのようにしていいかわからない。



トイレの壁の位置をほとんど変えずに、もともと広くあった通路を活用し、大便ブースを広くゆったりとした空間に改修。(上図：1Fトイレ図面) 一般ブースでは幅1,000mm、広タブースでは幅1,300mmを確保し、広い空間を実現(規格は幅800mm)。



広タブース(ブース内にベビシートを設置し、子どもや高齢者等の付き添いで利用も可能)



乳幼児連れブース(男性トイレにも設置し、周りの視線を気にせず、子どもの世話を可能)



1F多機能トイレ



2F多機能トイレ

更衣室 (改修)

➤ 誰もが使いやすい空間となるよう、各利用者に配慮した改修を実施(競技選手、女性、子ども、車いすなどの利用者)

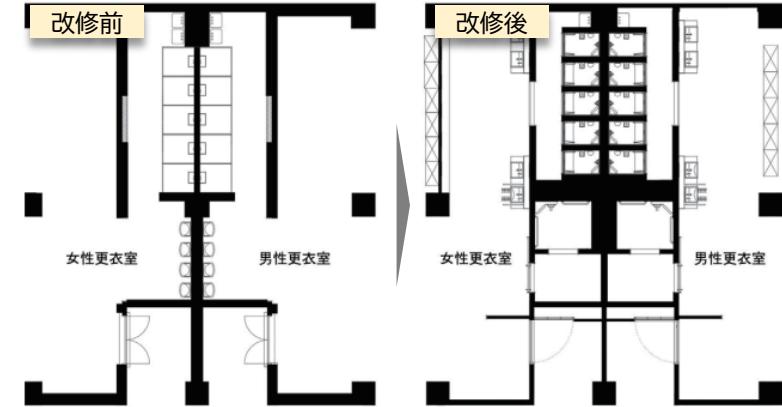
シャワー室が古いため、施設利用者に適した環境になっておらず、不便を感じる場所となっている。



男女シャワー室において、車いす利用者も旋回しやすい広さを確保。(幅800mm×奥行1,200mm)



車いす利用者をはじめ、誰もが開けやすいよう、引き戸を採用。洗面も様々な利用者に配慮し、高さの異なるものを設置。



「誰もが使いやすい」をコンセプトに、車いす利用者を考慮した広めのシャワールームを新設。



女性競技選手や利用者に配慮して、お化粧直しや身支度がしやすいよう、スタイリングコーナーを設置。

その他、施設内の工夫

➤ 施設内のスペースを最大限活用し、利用者の利便性を高めるための工夫を実施

冷暖房がないため、利用者は、夏場や冬場での体温調整が難しい環境下となる(トレーニング室)。



予算の問題から空調設置ができないため、夏場は扇風機を冬場は暖房器具を設置。

施設内において、授乳室等の場所がなく、乳幼児がいる利用者にとって不便な環境である。



空きスペースを有効活用し、通路端にベビーベッドを設置し、乳幼児連れの利用者を配慮。

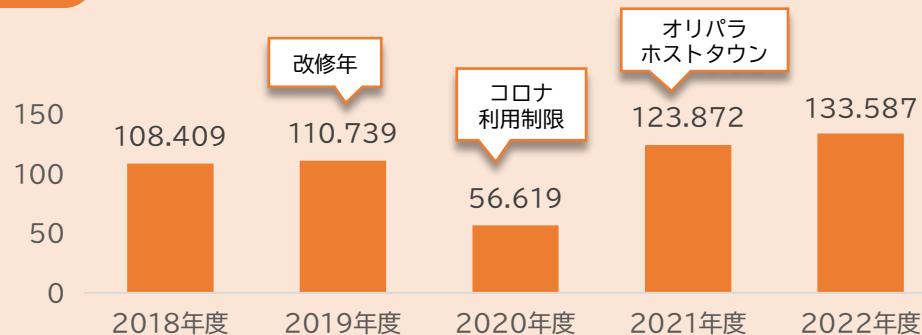
高齢者や子連れ利用者など、施設内に気軽に身体を休めるスペースが少ない。



施設内の限りのスペースを有効活用し、通路にベンチを設置。

利用者現状

利用人数



効果

【利用者満足度】

改修後、施設が利用者に対して実施した満足度に関するアンケート調査では、回答者の85%が「トイレ・更衣室に満足している」と回答。

利用者Voice

・トイレ・更衣室(シャワー室)が使いやすかった。
(ウズベキスタン代表選手団)



・改修によりきれいになり、個室が広がったことで使いやすくなった。
(一般利用者)

2021年度から2022年度の3年間は、新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場として使用、接種のための来館者を含む。